

## 第2回子ども読書活動推進計画策定検討委員会（書面開催） ご意見・ご質問に対する回答

計画番号	事業名	意見	回答
冒頭	「子どもと読書」	・低学年の子どもが図書館に親しんでいく際、適切な時期ではない本に背伸びをして手を出して、歯が立たない思いをすることは、「6年生になったら、この本読めるようになるのかも」と思うこと自体が希望となる等意味のあることだと思う。	・様々な読書の楽しみについてご提案できるよう再考いたしました。
2	ブックスタートのフォローアップ事業の充実	・この年代は、子ども向けの「読み聞かせ」よりも、親向けに「本を使った子どもとの遊び方」「本を寝かしつけに使うテクニック」などを啓蒙していくほうが有効ではないかと思う。 親が楽しんで声かけできれば、この時期の子どもは、「本」そのものは本当は何であっても面白く遊べる方法はあるが、書いてある文字をそのまま読むことしか出来ない方が多い。 遊び方を含めて紹介するブックリストを作ることで、親もスキルアップできる。	・本事業は、ブックスタート後、継続して絵本を介した親子のふれあいの機会をもっといただき、親子での図書館利用につなげていくことを目的に実施しております。さらに、会の冒頭では、「子どもに絵本を読んであげるのではなく、一緒に楽しんでください。絵本をとおして子どもと楽しい時間や温かい気持ちを分かち合ってください」と話をするなど、絵本の読み聞かせが、親子にとってのかけがえのないコミュニケーションツールとなるよう働きかけているところです。今後も、様々な機会を捉えて、読み聞かせのアドバイス等に努めてまいります。
		・身近な施設での実施が望ましいとの記載に賛同する。地域活動センターや交流館なども含めた施設で、土日の開催を検討して頂きたい。	・ブックスタートのフォローアップ事業「としょかんとなかよし」は、図書館に実際に足を運んでもらって図書館となかよしになることを目的としておりますので、ほかの施設で行うと意味が半減してしまいます。R3年度からはより来館してもらいやすくなるよう、図書室を除く全館で第3・4日曜の午前中、各2回に拡充いたします。感染症対策として1回の人数制限を行っていることもあり、月1日1回だったものを月2日計4回にいたします。
6	ブックリスト(推薦図書)の作成	・全体的に、上から啓蒙する姿勢が多い気がする。時代が変わっており、絵の感覚等、子どもに必要な本も変わっている部分があるが、昭和の時代から権威となっている人が薦めている本をそのまま薦める傾向が強いと感じる。 ・小学校中学年以上くらいなら、同年代のおすすめの方が手が伸びやすいため、利用者からの「おすすめ」を集める方策をとったほうがよいと思う。	・文京区立図書館として備えておくべき基本図書については、出版後、年数が経過してもお薦めできる本として児童担当職員が選定しております。また、どのような本を選べばよいかと聞かれることも日常的に多く、子どもたちに支持される本の傾向を考慮しながら、新刊図書の中からも随時選定するなど、子どもたちにとって身近な図書館として、子どもたちに手に取ってほしい本を紹介しております。今後も様々な角度から本を選び、読者(利用者)とつなげる取り組みを行ってまいります。 ・学校図書館においては、児童や生徒間でお薦めの本を紹介する取組が行われております。区立図書館においても、同世代に人気の本の紹介などを行ってまいります。
8	幼稚園・保育園・児童館等の図書と設備の充実	・保育所や幼稚園の蔵書は限られているため、公共図書館との連携ができるとうい。	・公共図書館からの団体貸出制度があり、連携が可能です。
9	乳幼児とその保護者が利用しやすい環境づくり	・アンケートの自由記載で、「静かにできる子しか利用できないので無理」「うるさくしたらどうしよう」という、図書館に足が向かない理由が複数あった。たとえば、土日の1時間を、「児童書のエリアでうるさくしても注意されないキッズタイム」を設けてみるのはどうか。騒がしいのが苦痛の人はその時間をさけて来館できるように、曜日と時間は固定が良い。	・不特定多数の方が利用する図書館の性格上、マナーを守っていただくことが原則ですが、読み聞かせなどを楽しむ過程で笑ったり、大きな声を発しても注意することはありません。今後も状況に応じて柔軟に対応してまいります。

10	特別な支援を必要とする子どもへのサービス及び資料の充実	・個別の対応が必要なケースが多く、人員と予算が必要ではあるが、手厚いサービスを提供する体制づくりに期待する。要望事項を吸い上げる窓口はあるか。支援学校、支援学級の図書サービスの要望を調査することが第一歩ではないか。	・特定の窓口は設けておりませんが、図書館の児童担当職員や区立小・中学校の学校図書館支援員がニーズの把握に努めております。事業内容や体制等、各々の状況に応じて検討してまいります。
11	特別支援学級等配慮が必要な児童・生徒の読書活動の推進		
12	子ども向けホームページの充実	・図書館での楽しみとしてブラウジングがあるが、まだ図書館に足を向けていない層には、デジタル書架ギャラリー等の、より視覚や直感に訴えるような蔵書検索の方法があると身近に感じると思う。	・国際子ども図書館等では、コロナ禍に伴いバーチャルで館内を見学できる取り組みを実施していました。文京区では対応できておりませんが、本の検索をした際、ホームページに表紙を表示できるようにしました。今後も、図書館の魅力を発信できるよう工夫してまいります。
17	YAを対象としたサービスの充実	・図書館でのおすすめや特集等が良い。区内の学校にも、推薦書のリストや特集が現状よりも頻りに配布されると良い。 ・ホームページでもおすすめポイント等の特集が組まれると良い。	・ホームページでの特集を含め、様々な媒体での配布や広報を進めたいと考えております。
18	区内の大学等との連携の推進	・区内大学の学生のパワーを活用してほしい。読み聞かせだけでない企画ができると良い。	・YA世代などに向けて、おすすめの資料の案内や進路に関するアドバイスなどの機会を設けていくとともに、学生のボランティア登録も進めていきたいと考えております。
23	調べ学習への支援	・文京区には、私立学校に通う子も多い。夏休み前に、図書館の利用登録方法、蔵書検索や予約の方法、電子書籍の利用方法を周知するような広報を、学校経由でなく、広報紙やチラシなどで周知すると、未利用の生徒が図書館に足を運ぶきっかけになると思う。読みたい本をネットで予約して最寄りの図書館で受け取れることを知らない人も多いのではないか。	・区立中学校や区内の国立・私立中学校の新1年生に「ぶんきょう来(らい)ぶらり〜」という図書館利用案内及びおすすめ図書・CDを掲載した冊子を配付するほか、区立図書館での配架、図書館ホームページへの掲載等、広く周知しております。さらに、小学校に対しても図書館利用案内及びおすすめ図書リスト等の配付を行っており、今後も幼少期からの読書習慣の確立や図書館利用促進のため取組を継続し、中学校入学以降も利用されるよう周知してまいります。

27	子どもへの啓発	<p>・「図書館の利用促進を図る。」について、私立中学(高校)に通うお子さんへの情報提供の機会がないように思う。また、小学校(中学校)のときに持っていた利用カードの更新(身分証の提示)が必要であり、せっかく足を運んだのにカウンターで貸し出してもらえなかったことがある。公立学校経由でない方法で、図書館のカードを持つ、図書館ホームページをスマホやタブレットに入れよう、電子書籍を読もう、などの広報を拡充して頂きたい。</p>	<p>・23の回答と同様になりますが、私立中学校新1年生へ「ぶんきょう来(らい)ぶらり～」を配付するなど、広く周知に努めてまいります。</p>
		<p>・図書館でのおすすめや特集等が良い。区内の学校にも、推薦書のリストや特集が現状よりも頻りに配布されると良い。</p> <p>・ホームページでもおすすめポイント等の特集が組まれると良い。</p>	<p>No17の回答と同じです。</p>
31, 32	図書館職員の研修の充実	<p>・図書館職員の研修について、ICTに対応するための研修は行っていますか？図書館こそICT化を推進すべき機関だと思う。研修の中にICT化に対するものも入れてはどうか。</p>	<p>・レファレンスに対応するためのオンラインデータベース(新聞記事など)の活用等に関する研修や、各館でのOJTにてICTシステム研修を実施しています。図書館のICT化については、電子図書館機能を導入したことによるさらなる取組みを検討してまいります。</p>
33	図書館ボランティア(ライブラリーパートナー)の育成と連携	<p>・図書館でボランティアさんを見かけたことがないが、具体的には何をしていますか。</p>	<p>・読み聞かせやおはなしの会の運営、布の絵本の作成、資料の修理などを行っていただいております。</p>
35	読書活動を推進する団体等との連携の推進	<p>・地域で活動する団体の把握に加え、ボランティア団体を集めて広報してほしい。身近なボランティア活動に興味がある区民は少なくないと思いますので、参加したい人と団体をつなげる機会になる。</p>	<p>・担当部署とも連携を図りながら、図書館ボランティアのPR、拡充をすすめてまいります。</p>
新規	入院中の子どもへのサービス	<p>・感染症対策で、難しいかもしれないが、新品の本を優先的にリクエストできる予算措置、つきそっている保護者へのサービス、電子書籍端末の一時貸与など、ぜひ検討して頂きたい。</p> <p>(小児病棟にお子さんが入院された経験がある友人にヒアリングしたところ、コロナ禍で読み聞かせやボランティア団体のミニ図書館などの活用ができない状況、院内はWiFi接続不可などの制約がある。お子さんやつきそいの大人の方々に重宝されたのは、退院した人から寄贈されたマンガなどだったそうです。)</p> <p>・区内の小児病棟のニーズを調査し、貸し借りでない形でのサポートができると良い。たとえば、「小児病棟への書籍・マンガ等の寄贈用の棚」を一定期間設置して本を集め、消毒をしてから配るなどどうか。</p>	<p>・病院に対し、ヒアリングを行い、病院と連携した図書館サービスについて検討してまいります。</p>

新規	子どもの居場所としての機能の推進	・ぜひ進めていただきたい。子どもがしやすいような環境作り(物理的なものに加えて司書さんからのコミュニケーションなども含めて)について、具体的に何か考えているか。	・子どもたちにとって魅力ある、開かれた場とする必要があると考えております。図書館という施設の性質上、対話が難しい面があります。また、図書館員の最も重要な役割は本と利用者を繋ぐことにあります。その上で、子どもと職員あるいは子ども同士のコミュニケーションが図れるような体制を作っていきたいと考えます。
その他	【質問】 感染症対策	・コロナ禍で、不特定多数が利用する図書館の書籍に触れることを敬遠する声があったか。	・アンケート結果では、利用しなかった理由として感染症を心配する回答が多くありました。一方で、こういう時期だからこそ図書館を開けてほしいとのお声も多く、児童書の利用は減少していません。
その他	【質問】 感染症対策	・コロナ禍での「調べ学習」支援で、何か普段とはちがう取り組み事例があれば知りたい。	・学校図書館支援員からの報告では、以前はグループごとに本を用意いたしましたが、感染リスクを抑えるため、1人1冊用意できるよう、区立図書館の団体貸出を活用するなどして対応いたしました。
その他	【質問】 図書館およびその施設に関する こと	・勉強スペースを増やしてほしい。常設は難しくても、せめて夏休みの自由研究で大型本を広げられたり、数人で話しながら閲覧できるようなテーブルの設置など、工夫してもらえるとありがたい。	・一部の区立図書館では、夏休みの時期に多用室を閲覧席として開放しております。しかしながら、数人で集うとなると、静かに本を読みたい、勉強をしたいという人もいるため、スペースが限られた図書館では対応が困難な状況です。中高生が数人で自由に話しながら勉強する場所としては教育センター内のb-lab(ビーラボ)の利用が適しているため、ご案内するなど、ニーズに合わせた対応をまいります。
その他	【質問】 図書館およびその施設に関する こと	・西片、白山周辺にも展示・貸出スペースがほしい。保育園、児童館などを利用できないか。返却だけでもできれば助かる人が多い。	・向丘地域活動センターにおいて、予約資料の取次と返却ができるため、この地域でのサービスポイントの増設は難しい状況です。なお、返却はどこの図書館でも可能です。
その他	【質問】 図書館の運営に関する こと	・保育園への貸し出しを充実してほしい。認可、認証保育園でも実施しているか。	・区立・私立、認可・認証などを問わず、実施しております。



その他	【質問】 図書館の運営に関すること	・返却場所を図書館以外に作ってほしい。駅ナカに返却ポストを設置、保育園や幼稚園に持ち込まれたものをボランティアが図書館に持って行く等できないか。これは、大人の利用者のニーズも大いにある。	・駅や幼稚園、保育園への設置については施設ごとの特性や管理面の課題があり、実施していません。なお、図書館以外には、シビックセンターと株式会社図書館流通センター(大塚3-1-1)にブックポストを設置しております。
その他	【質問】 図書館の運営に関すること	・不要本を集める(交換する)棚を作ってほしい。どの図書館にもあるか。子どもの本を重点的に募るものがあるのも良い。	・図書館で不要になった本や寄贈された本で受け入れなかったものをご自由にお持ちいただける、リサイクルコーナーを全館に設置しています。
その他	【質問】 予算	・拡充・継続がほとんどですが、それを可能にする人的、経費的資源は十分か。	・継続する事業の中には、同様の事業を統合する等、効率を図るものもあります。適切に事業執行が図られるよう財政の部署とも協議してまいります。
その他	【質問】 全体	・今回の委員会では縦割りの対策を横につなげるような役割が期待されているのではないかと想像したのですが、それに相当する具体的な施策はあるか。いくつか課題には上がっていますが、具体的な施策が図書館と保育園幼稚園・小中学校の間くらいしか見受けられない。 文京区の強みを生かして、図書館・保育園幼稚園・小中高等学校・大学・出版社が連携して読書を推進するための、具体的で推進力のある施策があるとよいな、と感じた。	・個別の連携は今後も大切にしていますが、さらに、本計画を推進するため、図書館を中心とした横断的かつ継続的な協働の可能性について、引き続き検討してまいります。
その他	【質問】 全体	・アンケートについて、結果はわかったが、それについての考察を知りたい。(例えば子どもの設問1の小3が94%、小5が92%、中2が75%というのは十分高いと考えているのか、低いと考えているのか、何を根拠に高い低いを判断しているのかなど。) ・単年度の結果だけでなく経年でどう変化しているのかも知りたい。	・第3回委員会資料に、アンケートの集計結果を含め、文京区の子どもたちの読書活動の現状と課題を提示いたします。